

10 生麦第一地区

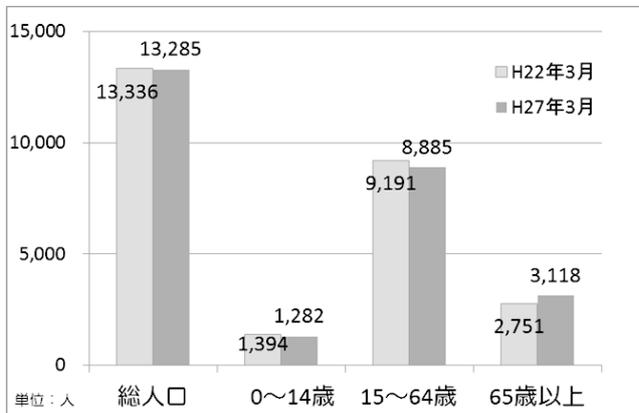
1. 地区概況

旧東海道や魚河岸通りなど、昔からの街並みが残り、地域で下町的な交流や歴史的文化が継承されている一方、新しいマンションが増えてきています。
京浜急行、JR、国道により地域が分断されており、高齢者等が、地区活動に参加しにくいエリアがあります。



2. 生麦第一地区の人口（年齢区分別）

	H22年3月 (年齢区分別比率)	H27年3月 (年齢区分別比率)	【参考】H27年3月 (鶴見区全体の年齢区分別比率)
総人口	13,336人 (100.0%)	13,285人 (100%)	(100.0%)
0～14歳	1,394人 (10.5%)	1,282人 (9.6%)	(13.3%)
15～64歳	9,191人 (68.9%)	8,885人 (66.9%)	(67.0%)
65歳以上	2,751人 (20.6%)	3,118人 (23.5%)	(19.7%)



- 5年前に比べると、総人口が50人減っています。
- 0～14歳、15～64歳人口は減っていますが、65歳以上の人口は367人増えており、高齢化が進んでいます。

※地区別人口については、集計上の誤差があり、実態と一致しない場合があります。 出典「横浜市統計ポータルサイト」

3. 第2期計画

人とひととのつながりを大切に育てます。

- ◆地域の文化を伝承することによって、人と人のつながりが生まれます。
- ◆人と人がつながれば、安心・安全なまちがつけられます。
- ◆安心・安全なまちは、すばらしい仲間がいる、誰もが住みやすいまちです。

それが、生麦第一地区・・・

4. 第2期計画の主な取組内容（22年度～27年度）

★平成24年1月 生麦地域ケアプラザ開所が決定！★

●開所前の地区フォーラム

『生麦地域ケアプラザ』を地域でどのように活用していくのかを話し合い、準備をしました。

☆最初の目標☆ “まずはケアプラザを知ってもらうところからはじめよう！”

～当初の声～

- ・若い世代と高齢者との交流イベントをやってみてはどうだろう！
- ・昔ながらの近所づきあいがある地区だからこそ、その良さを後押ししてほしい。

平成24年1月

生麦地域ケアプラザが開所し、あいねっと支援チーム会議に加わって・・・

～地域の方の声～

あいねっとは、子どもから高齢者、障がい者など地域に暮らす全ての方が対象です。生麦第一地区では、まず「子どもが地域で健やかに育つ」ための取組として、子どものことから順番に取り組んでいこう！

こどもあいねっとの発足（平成24年度）

～生麦こどもあいねっとの目標～

地域の方々が子育てに関心を持ち、保護者の方が安心して子育てできるよう、子育てに関する地域課題の解決を図ります。

- ①子育て中の方の育児不安や孤立化などの解消
- ②よりよい子育てをする環境づくり
- ③子育てにかかわる関係機関のネットワークづくりや情報交換



こどもあいねっとの様子

●これまでに行われた生麦こどもあいねっとでは・・・

地域で活動している子育て支援者同士のネットワークづくりが進められました。

子育て支援の現状や子どもを取り巻く環境についてなど、地域と子育て支援者との情報共有、意見交換を行うことができました。子育て中の育児不安解消、親子の孤立化減少に向けた交流の場づくりや情報の発信などの具体的なアイデアが出てきました。

●平成26年度3館合同秋祭りでは、子どもの生活習慣などに関するアンケートを実施。



子どもブース206人、大人ブース109人の参加を得て、子どもの日常生活に関する実態を把握することが出来ました。結果、多くの子どもたちは、明るく健康的な生活をし、地域とも関わりを持って過ごしていることが分かりました。反面、60歳以上の年配の方は、話し相手や日常生活のちょっとした手助けを求めていることが分かりました。

●平成27年度は新メンバーを加え、より具体的な取組に向けた話し合いが行われました。今後は、高齢者など、子ども以外についても話し合いをしていきます。

5. 第3期計画策定に向けて

「あいねっと地区懇談会」を開催しました 会場：生麦地区センター

地域の方々を中心に、毎回50名以上の方が集まり、生麦第一地区の「人と人とのつながり」や「誰もが住みやすいまちづくり」への取組について話し合いました。

第1回 平成27年3月7日(土)13時30分～15時30分 参加者55人

生麦第一地区の世代別人口・高齢化率等の地区の概況について、区役所からの説明の後、6つのグループに分かれて、現在の地域活動や地域のいいところ・こうなったらいいと思うことについて話し合いました。各グループからは、下記のような意見が出されました。

～地域のいいところ～

- ・大人も子どもも「人情味」があり、昔ながらの付き合い方が息づいている。
- ・子どもから高齢者まで、ともに集まることが多く、各団体が連携できている。
- ・伝統芸能や文化が継承されていて、たくさんの行事や日常的な活動がある。
- ・活動に人を呼び込む工夫があり、「人」が「人」を呼ぶことができる。



～こうなったらいいと思うこと～

- ・高齢者に関わる活動がそれぞれ連携して、活躍の場がさらに増えるといい。
- ・活動に出てこない人や、困っている人の情報を地域で気づけるようにしたい。
- ・つながりをさらに深め、継承していくための機会や場所があるといい。
- ・子どもたちも一緒に地域のことを考えたり、役割が持てるといい。
- ・地域の活動や行事に、男性や、若い世代の参加を増やしたい。

第2回 平成27年7月4日(土)13時30分～15時30分 参加者53人

第1回目の意見をもとに、『生一地区が「もっとこうなったらいいな！」を実現するためには…?』をテーマに話し合いました。前回と同様にグループに分かれて、具体的な意見交換が活発になされました。そして、下記の思いや方向性が共有されました。

～様々な「場」について～

- ・子ども同士や大人と子どもが世代間で交流する場を大切にしていきたい。
- ・みんなが気軽に集まれる場を作りたい。
- ・さまざまな団体がつながり、負担感なく楽しく交流する場を増やしていきたい。



～種々の「活動」と「つながり」について～

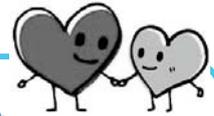
- ・高齢者との交流や、老人会と子ども育成会との連携を多くしていきたい。
- ・お祭りやスポーツなど、世代を超えて一緒にできる活動を行いたい。
- ・多くの人が行事や活動に参加して、もっと顔見知りを増やしたい。
- ・行事や活動を通して、子どもたちに地域の伝統を伝えていきたい。
- ・また参加しよう、楽しかった、と思える内容のものを続けていきたい。
- ・マンション居住者などの新しい住民層ともつながれるように工夫したい。

～運営等について～

- ・中学生・高校生がもっと行事に参加しやすいように、お知らせや運営を工夫したい。
- ・掲示板を活用するなど、町内会活動について細やかな情報提供を行いたい。

6. 第3期計画策定（28年度～32年度）

人とひととのつながりを大切に育てます。



- ◆地域の文化を伝承することによって、人と人のつながりが生まれます。
- ◆人と人がつながれば、安心・安全なまちがつけられます。
- ◆安心・安全なまちは、すばらしい仲間がいる、誰もが住みやすいまちです。

それが、生麦第一地区…

目標1

地域みんなで手をひろげ～つながりの維持～
顔と顔・人と人が、さらにつながる地域にしよう

■現状の良いところ・課題

大人も子どもも「人情味」があり、昔ながらの付き合い方が息づいている。子どもから高齢者まで、ともに集まることが多く、各団体が連携できている。高齢者に関わる活動がそれぞれ連携して、活躍の場がさらに増えるといい。活動に出てこない人や、困っている人の情報を地域で気づけるようにしたい。つながりをさらに深め、継承していくための機会や場所があるといい。

■5年間の具体的な取組

- ◎老人会や子ども育成会など、高齢者と子ども関係団体の連携をより進める。
- ◎みんなが気軽に集まれる「場」を作る。
- ◎お祭りやスポーツなど、世代を超えて一緒に楽しめる活動を継続する。
- ◎子ども同士や大人と子どもが世代間で交流する機会を増やす。
- ◎学援隊やふれあい給食などを通して、子どもも含めた顔の見える関係づくりを続ける。



キーワード

- ・世代間交流
- ・居場所づくり

目標2

地域の中で声をあげ～活動の継承・活性化～
それぞれが力を出し合って、活躍の場を広げよう

■現状の良いところ・課題

伝統芸能や文化が継承されていて、たくさんの行事や日常的な活動がある。活動に人を呼び込む工夫があり、「人」が「人」を呼び出ることができる地域。子どもたちも一緒に地域のことを考えたり、役割が持てるといい。地域の活動や行事に、男性や若い世代の参加が増えるといい。

■5年間の具体的な取組

- ◎また参加しよう、楽しかった、と思える活動を続けていく。
- ◎さまざまな団体がつながり、負担感なく楽しく交流する場を増やす。
- ◎地域行事を通して、子どもたちに地域の伝統を伝える。
- ◎マンション居住者などの新しい住民層ともつながれるよう、工夫する。
- ◎中学生・高校生がもっと行事に参加しやすいように、お知らせや運営を工夫する。
- ◎掲示板を活用するなど、町内会活動について細やかな情報提供を行う。
- ◎多くの人が地域の活動に参加して、もっと顔見知りが増えるようにする。



キーワード

- ・活動の継承
- ・新たな担い手